

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月の職員向上会議で読み合わせを行い、職員間で共有しケアの見直しを行い実践につなげている。	毎月の職員向上会議及び運営推進会議等において読み合わせている。理念は、日々の実践の基本となるため、管理者・職員・委員等はこの理念を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の環境整備に参加していたがコロナの影響で少なく、地域の行事も中止となっている。それでもボランティアの方の支援はあった。	地域との関わりを大切にし、地域のボランティアと関わり合いながら、地域に溶け込み繋がりを大切にしている。今後、介護教室等の実践を通じて地域への還元を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実習生の受け入れ、職場体験などが中止となり地域の方に対して活かす機会はほとんどなかった。近くの福祉施設より数名デイサービスを利用して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	利用者状況、活動報告、事故、ヒヤリハットなどの報告を行い意見や助言を頂き会議等で共有して向上に努めている。	活動報告や利用者の状況等報告し、ヒヤリハットを挙げ、事故につながらない対応に結び付けられるよう、推進委員からの意見等を聴き、これを職員間で共有しサービスの向上に努めている。評価の取り組みを話し合い今後に活かすよう計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	事故があった場合の報告や運営推進会議に地域包括センターから参加して頂いている。利用者の空室情報など協力を得ている。	日頃から、利用者の状況やサービスの取組等、事業所と地域包括支援センターとの連携を図っている。	さらに市の担当者との連携を密に図れることを願っています。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の意味を理解しているが、徘徊者に危険が及ばないように状況に応じてやむを得ず施錠をする場合があった。	職員向上会議において事例を検討し、廃止に向けた工夫を考えている。管理者は身体拘束をしない方針をきちんと打ち出し、職員としての行動を確認し合うなど、生活の場に相応しい環境作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会に参加して虐待防止に努めている。声掛け等高圧的でなく、適切であるように時に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会など学ぶ機会が少なく理解や活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を十分に取って説明して同意を得ている。その後、理解は得ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会の中止や家族の面会制限などで要望や意見を聞く機会は少なかったが、来所の際などに言われたことについては、連絡ノート、会議などで共有している。	コロナ禍の中、毎月、利用者の生活ぶりや事業所の活動等を家族にお知らせして、意見を聴く工夫を行っている。家族からは、もう少し歩かせてほしい等の要望があり、記録にして、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員向上会議や日常的に職員から意見などを聞き活かせるように努めている。	職員向上会議にて、職員から建設的な意見も出され、運営に活かすよう努めている。日常的に意見や要望等出し易い環境であり、会議において職員間で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の把握はまだ不十分であり、法人が変化の時期でもあり説明している。できる限り環境は整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	なるべく多くの職員が研修会に参加できるようにしている。外部研修は個々の意欲の違いもあるが、意欲のある方を優先に研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの連絡会など開催がほとんどなく同業者との交流などできていない。機会を作り情報交換してサービスの向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期段階は特に環境の変化もあり、安心できる声掛け、傾聴に努め、本人を知る期間としても関係性を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が困っていること心配などを把握し、様子を報告して一緒に本人を見ていけるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時に生活歴、アセスメント情報などで本人を知ること努めている。その方に合った方法や支援を提供する様に努めている。他のサービス利用までは至っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	目上の方でもあり本人を理解して尊厳を大事にして共同の気持ちで接している。本人から学ぶことも大きい。一部職員の目線で対応している場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月のお便りや電話の機会、来所の機会があれば近状の様子を伝えるように心掛けている。何かあればその都度、家族に連絡して共に支えて頂くように依頼するなど協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの影響もあり外出はほとんどできていない。馴染みの美容師に来所して頂く方もいた。通院の帰りに短時間ではあるが、家の近くまで行ってくれる家族もいた。	利用者にとっての馴染みの関係は、家族等の協力を得て把握に努めている。馴染みの人等への支援は、コロナ禍の中、窓越し面会の工夫などして支援をしている。センター方式を活用し、関係が途切れない様努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を職員間で共有し関係性が保たれるような声掛け等行っている。職員が間に入り調整することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	場合によりサービス終了後も状況を聞いて繋がりを大事にしている。退所の状況により必要とされない場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、暮らしの希望など意向の把握に努めているが聞き出せない場合は、家族に聞くなど、本人目線で考える事を意識している。また記録に残して共有している。	日々のお茶の時間や入浴時等の生活の中で本人の思いを聴いている。困難な場合は、利用者が笑顔になった時はどのような時だったかを知るように努めている。	コミュニケーションがとりにくい利用者が、どんな時に嬉しい表情をするか、何があって不機嫌になったかなど、丁寧に記録して、自己決定できる支援に期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報以外でわからないことは、本人や家族に聞いて対応しているが、家族も高齢などの状況もありわからないことも少なくない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の過ごし方や状態の把握に努め記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の状況、課題をチームで確認し本人、家族の意向を取り入れた計画としているが、一部まだ不十分なところもあり、本人、家族の意向などもしっかり取り入れる必要がある	記録及びモニタリングを基に、アセスメントを行い、担当者から利用者の要望や状況を聴き、また家族からの要望も聴いて、その利用者に沿った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護明細書(ケア記録)に記入して申し送り時や会議などで気付いたことなどを話し合い共有し、必要時は介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	基本は、家族に受診を依頼しているが、本人、家族の状況により受診、買い物などの支援を行い柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	通常であれば、読み聞かせ、音楽療法、シニア大学、日赤奉仕団、JA虹の会など、多くのボランティアの方、学校や地区の方とふれあいがあったが、コロナの影響で外部との接触がなく支援は少ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望を確認して受診している。家族にて、かかりつけ医に受診して頂いているが場合により職員が対応している。何かあれば、協力医と連携を取り相談するなど早期治療に努めている。	受診は家族にお願いしている。受診後は、電話等で報告し連携を図っている。口腔ケアは定期的に事業所に訪問があり、必要に応じて受診を受けるなど、安心できる受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調など状態変化が見られた場合は早期に看護職または訪問看護へ連絡し報告、相談をして指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は、看護師にきちんと情報を提供して対応を共有し、入院中の情報も家族、病院関係者と情報交換し共有している。入院先も様々で関係作りは難しい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期の話し合いなどは段階的に話が必要であるが、状態が良い方も多く状況を見て行う。しかし、早い段階で終末期のあり方など、事業所で出来ることなどを確認しておく必要はある。	利用者の多くは、終末期を迎えている利用者であるので、事業所としての方針は、利用者・家族等に伝えている。	定期的に利用者・家族等と終末期に向けた話し合いを行い、思いをくみ取り、医療関係者等、チームで支援できる取り組みを期待する。職員には、終末期に向けた研修会等を実施される事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当、初期対応の訓練などでできていない。避難訓練の延長で救命救急法など実施したい。また転倒事故発生時などの正しい対応も踏まえ統一してできるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	1月に避難訓練を実施して道具の場所や行動の確認をした。前回の反省点を踏まえ、3月に消防署、消防団、運営推進委員会とともに協力を得て訓練を実施する予定。	消防署の指導を受け、避難訓練・消火器の使用方法について実地訓練を行った。実施後は、課題をあげ次の対策に活かすよう努めている。	事業所の特性を把握し、想定される事態についてイメージや対処方法を職員・運営委員等で共有し、地域の連携も図り、マニュアル化される事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々に合わせた声掛け等対応に努めている。また介護拒否など状況によっては焦らずに時間を空けるなど、声掛けに工夫をしている。	職員の行動目標を掲げ、一人ひとりの利用者に対して声掛けや接し方など、職員間の統一を図るよう工夫に努めている。出来る事に光を当て、本人が選ぶことが出来る支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めつけず、その場の状況で本人が決定しやすいよう声掛け等働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	作業など時間時間で声は掛けるが、意思を尊重し個々のペースで生活できるように心掛けている。焦らず希望に沿った生活を支援できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣や入浴の際など、出来る限りその日の好みの物を選んでいただき、訴えが無い方でも季節に応じた衣類など毎日同じにならないような服選びをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	希望する献立作りや様々な料理の献立作りを意識している。畑で収穫した野菜の皮をむいてもらうなど作業してもらい、それが食卓に上がり会話も弾む。	ベランダにて、お茶を楽しんだり、五平餅と一緒に作り、おいしく頂いている。収穫した野菜の下ごしらえと一緒にいるなど、職員と共に楽しむことが出来るよう努めている。	日頃は利用者と食事を一緒に取ることができないが、その中でも職員は、テーブルと一緒に囲み会話をするなどの工夫を凝らして、楽しい食事時間となるよう期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量の把握に努め水分摂取回数なども記録して足りないようであれば、いつでも飲めるような支援をしている。全員一緒ではなく、それぞれに合った食事形態や食器を準備して形からも楽しめるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアできるように確認して取り組んでいる。訪問歯科と連携を図りながら、治療に取り組み、相談などを行っている。歯科衛生士による個別ケア、指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の記録を取り個々の排泄チェックをしている。パターンを知り、声かけの時間を変えたりパットの工夫をしてトイレを使用したり、失敗を減らすように努めている。	排泄チェック表を基に、一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員は声掛けなど工夫し、トイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘者については看護師や訪問看護師に連絡して内服薬を調節し排便コントロールをしている。毎日ヨーグルト、果物などを取り入れ摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	職員の人数や業務の都合で、AMかPMのどちらかで入っていただいている。ゆっくりと入っていただけるように心掛けている。拒否が強い方には、更衣や部分清拭など無理強いしない対応を取っている。	ゆず湯やしょうぶ湯等季節の入浴を楽しんでいる。個別の要望に応えられない事もある中、一人ひとりのペースに出来るだけ合わせられるよう工夫して、気持ちよかった！温まった！の音が聞こえる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の意見を尊重して自由に居室で休んでもらい、起きている際は作業など活動してもらい、夜間睡眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ある程度、服薬している薬の種類など把握している。間違えが無いように職員二人で名前を確認して本人の前でも確認して服薬して頂いている。変化があれば主治医など看護師に確認して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	女性も多く、家で行っていた家事仕事を積極的に行ってくれる。また役割となり習慣となっている。レクなどでも日々違った事を行い、行事ごとの前には作品作り等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの影響でほとんど外出支援はできていないが、ベランダで日光浴や五平餅会などを行っている。一度、ほぼ全員が紅葉ドライブを行うことが出来た。	コロナ禍の中、今まで支援してきた外出はできていないが、今後、更に職員向上会議で一人ひとりの希望に沿った外出支援が出来るよう、地域の人達の協力も得ながら検討していく計画である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理の関係で、基本お金は持たせていない。必要な物は立替で購入している。買い物などお金を使うような支援はできなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一部希望があれば、家族からの電話を取り次いだり、手紙を預かり一緒に返事を書いたりすることもあった。年賀状などの返事も支援ができるように心掛けたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールは温かく、日差しも良く入り遠くまで見渡せる。季節の花を飾ったり、季節行事の飾り物をして生活感を出し、心地良い空間を作っている。また清潔感を損なわぬよう気を付けている。	広いホールからは、地域の風景が見渡され、利用者同士がゆっくりと椅子に座り心地良さを感じられる。台所からは、利用者と会話もでき、和やかな雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一緒の空間であっても、それぞれ自由に過ごせるように空いたところにソファを置いたり、畳では寝ころべるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には馴染みのあるものを用意して置いている。本人が過ごしやすい環境を家族と相談したり、入所時にも提案している。	居室には、家族との写真が飾られ、季節の服など丁寧に吊るされている。家族と一緒に用意されたタンス等は、本人の置きたい場所に置かれ、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	幼稚にならないように配慮して、トイレの場所や、入浴の場所が分かるように張り紙をしている。それを見て行えることも多い。		